動物プランクトン

光合成をしないなかま

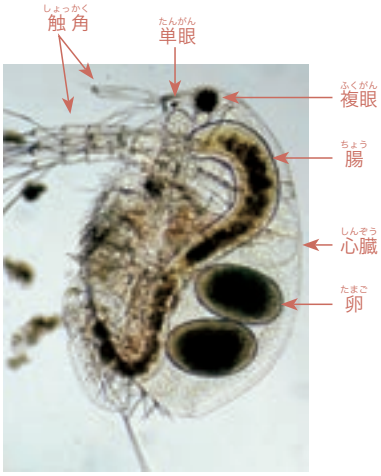
体のつくりから見た動物プランクトンの特徴

この図鑑では、動物プランクトンとして、単細胞生物のアメーバから多細胞生物のミジンコなど節足動物までをとり上げています。これら動物プランクトンに共通する特徴はなんでしょうか？　それは、動物プランクトンが植物プランクトンのように光合成をしないということです。動物プランクトンは、植物プランクトンのように必要な栄養物質を自分でつくり出すことができません。そこで、つぎのようなしくみが必要になってきます。

❶ エサを求めて動くしくみ
❷ エサを体内に取り込むしくみ
❸ 消化できないものや、体内のいらないものを捨てるしくみ
❹ 子孫を増やすしくみ

動物プランクトンを観察するときは、種類を調べるだけでなく、ぜひ、❶～❹についても調べてみましょう。

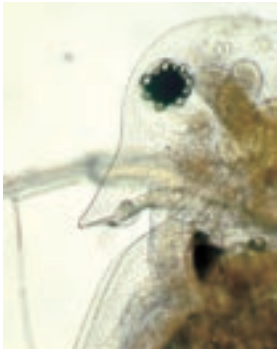
その一例として、ケブカミジンコの写真をのせました。1㎜ほどの大きさの体の中に、眼や心臓、腸などがしっかりとあることがわかります。それぞれの器官がどんな働きをするか調べてみましょう。



ケブカミジンコの体

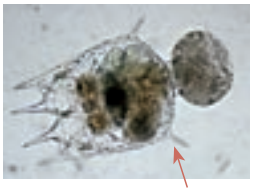
むずかしい動物プランクトンの見分け方
（動物プランクトンの形は変化しやすい）

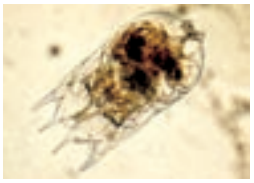
単細胞の原生動物は、種類が非常に多いので、この図鑑だけでは区別ができない場合があります。また、多細胞のワムシのなかまやミジンコのなかまも、環境によって形が変化することがあるため、種類を特定するときにこまることがあります。とくに、とげの長さは同じ種類であっても、まったくないものからとても長いものまであります。このように変化がはげしいので注意が必要です。カブトミジンコでは、頭のてっぺんがとがっているはずのものが、とがっていなかったり、丸くなったりするなどの変化も起こります。これらの変化は、敵に襲われにくくするためと考えられています。このように形の変化がはげしい動物プランクトンですから、いつどんな変化をするのかを調べてみるのも奥の深い研究テーマの1つになります。



◀ 室内での培養で、頭が丸くなったカブトミジンコ

◀ カメノコウワムシのとげのあるタイプとないタイプ





◀ ツボワムシのとげのあるタイプとないタイプ